目的で出して見た所，死んだものと思つて居た蜘蛛がまだ生きて居るのに驚かされた。その間何も喰わずにコルク栓を施した管瓶の中で338日間も生きていたわけである。さつそく蠅を与えてやつたが一向喰わうともせず 349 日目の 10 月 25 日に絶命した。

此の蜘蛛が入つて居た管瓶は，1946, xi. 11〜1947. iii. 30 の間は温突の部屋に，iii. 31〜x. 14 の間は物置きに，x. 14 以後は再び温突の部屋に保管されて居た。

2. コガネグモの卵寄生蠅

筆者が倉敷の大原農業研究所で各種の蜘蛛の卵嚢を調査して居たときのことである。1個のコガネグモの卵嚢を開いて見た所長さ 13 mm の蛆が盛んに蜘蛛の卵を喰つて居た。早速濕した砂を半分程入れた高腰シャーレに入れて蓋をして置いた所，卵を喰い盡し充分成長した蛆は砂の中に入つて蛹化し，間もなく *Sarcophaga* 属 (Sarcophagidae) の大きな蠅が 1 匹羽化出現した。ニクバエ *S. carnaria* L. の様に思つたが念の為め專門家の同定を仰ぐつもりで保管して居た標本が破損してしまつたので結局正確な種名はわからずしまいだつた。

岸田〔岸田久吉 クモタマゴバエ (食蛛卵蠅) に就て，Acta Arachnol., II, 3, pp. 90〜94, 1937〕に依れば日本の蜘蛛卵寄生蠅は Phoridae (ノミバエ科) 及び Chloropidae (キモグリバエ科) の蠅であるとのことであるから筆者が観察した *Sarcophaga* sp. は蜘蛛卵寄生蠅としては日本で初めての例ではないかと思う。 (白甲鏞)

朝鮮欝陵島の多足類3種

今年3月在大邱の白甲鏞氏が航空便で朝鮮の多足類標本を送つて下さつた。御親切を深く謝するものである。それは昨年 (1952) 8 月 14 日に李万正という御方が欝陵島で採集したものでムカデ，ヤスデ合せて5個体あつた。この島は一名松島ともいい今の南鮮の東方日本海洋上にあり戦前は行政上慶尚北道に属していた。高桑先生に伺うにこの島の多足類は調べたことがないと仰しやるし文献にも見出し得ないので，僅かな種類ながら又その何れもが朝鮮から既知のものであつたけれども，ここに記録して置く価値ありと考える。標本は次の 3 種であつた。

1. ヤケヤスデ *Orthomorpha gracilis* (C. L. Koch, 1847) 1♂ 2♀♀
2. トビズムカデ *Scolopendra subspinipes mutilans* L. Koch, 1878 ♂ (幼)
3. ヨシイツスンムカデ *Bothropolys yoshidai* Takakuwa. 1939 ♀ (高島春雄)

サソリで害虫退治

昭和 27 年 12 月 1 日附の朝日新聞に ＡＦＰ 提供の記事として「エジプト政府では

政府の書類保存庫に巣食つているタチの悪い生物の退治をはじめた。まず衛生省医薬班で飼つている一匹の黒い大サソリを使つて書類中の昆虫類を刺し殺させるとともに，書類保存庫にうようよしている虫類はもちろん，重要書類や銀行券を食い荒らすネズミどもを退治せよとの命令まで出た」と出ていた。原文を見ないけれどもサソリ関係のことは「刺し殺させるとともに」で終るのであろう。これは面白い方法であるけれどもこの物騒なサソリをどのように使用するのか？ 放せば逃げられるし，うつかりすればこちらが刺されるしどの程度に馴らしたのか説明が無いのは何とも残念。「黒い大サソリ」というのは恐らく大王サソリ *Pandinus imperator* (C. L. Koch) のことであろう。これは 18～20 cm にも及ぶ現世最大のサソリといわれる。私は最近本種のほぼ実大に描かれた見事な原色図を見た (Endeavour Vol. XII, No. 46 Apr., 1953)。触鬚の下掌部と毒囊を除けば全体濃緑藍色で，生きたのは定めて不気味であるに違いない。

(高島春雄)

列車の運轉を妨害するヤスデ

1953 年 10 月 11 日の朝日新聞と読売新聞に，小海線で久しぶりにヤスデの大群が列車を妨害したことに関する記事を見つけた。その内読売新聞の分（全文）を次に掲げる。

「十日午前一時ごろ甲信県境の高原鉄道下り九一六一貨物列車が甲斐大泉駅附近にさしかかつたところ突然車輪が空転して列車は立往生。附近に群棲する“やすで”(長さ二寸，幅五分ぐらい，“むかで”に似ている）の大群がレールの上にいるのを列車が押しつぶしたためその脂で車輪がすべつたもの。車輪を大掃除，廿二分遅れてやつと出発したものの再び大群におそわれ引き返し遂に運転中止となつた。駅員が竹ほうきで掃いたが追いきれず消毒班が出動，DDT で退治している。同高原ではこの豆ギャング共におそわれ列車の立往生はすでに数回，「保線班員に DDT を持たせたらどうか」と対策を研究している（臼田発)」

雑　　　報

既に御承知の通り八木沼健夫氏その他大阪方面在住の方々の肝入りで昨年本会の関西支部が発足致しました。関西支部の設立には会頭，評議員各位など何れも御異議なかつたのであります。文献活動は本部より遙かに盛で既に謄写印刷の ATYPUS を第 1 号から第 4 号まで，又活版印刷の Arachnological News を第 1 号だけ世に送つており